

『倫理の健忘病』

～歴史的な白塗りについての考え～

ある人は信じるだろう
ゲルニカとサラエボはそんなに破壊されなかった
そして
アウシュビッツやバタムで起きたことは嘘であると

ある人は信じるだろう
南京大虐殺はおおげさすぎる
そして
ベトナムで米軍はむごい行為をしなかったと

倫理の喪失は、平和への妨げ
過去の残虐な行いを認めなければ
暴力を止めることはできない

- 玲亜： 歴史を簡単に塗り替えたり、水で洗い流すことのできる壁だと考える人々がいます。
- 悟： いや、歴史を永久に消すことのできないものとして、考えている人もいるよ。
- ミン： 私の意見では、永久に残ることができる人間なんてありえないのだし、遅かれ早かれ、すべてのものは、塵と化するのだから。
- 玲亜： 私たちはもっと過去に対し、注意を払わなくてはいけないと思うわ。
- ティン： そう簡単にはできないことね。
- 玲亜： 本当に、まったく。権力はしばしば、過去の出来事を時の施政者の都合に合わせて「再整理」しすぎてきたわね。
- ミン： 確かにその通りだ。歴史を生きたものにするためには、多くの声が必要だね。歴史は決してひとつの民族や文化だけで決められるべきではない。多数の声が生かされるべきだよ。
- ティン： そうね。多くの人々が甲高い声でケンケン、ガクガクと論争するのも大変ね。私は、歴史が単一化や神話化が必要とされること自体、怪しいと思うわ。
- 玲亜： 誰のために。そして何の目的のために。歴史に対する深い反省がなければ、私たちはただのあやつり人形よ。

- T Newfields (和訳: 榎谷メリッサとテレサ)

開始: 1992年 静岡市 完成: 2023年 静岡市